



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

統合失調症

統合失調症は、考えや気持ちが多
とまりにくくなってしまふ病気で、原
因は脳の機能の変化にあると考えら
れていますが、まだはっきりとはわ
かっていません。主な症状は、「聞こ
えるはずのない声が聞こえるなど、実
際にはないものが感覚として感じられ
る」「現実にはあり得ないことを信じ
込む」「誰かに支配されていると思
い込む」などの陽性症状、「意欲や気力
が低下する」「感情が乏しくなる」など
の陰性症状などがあります。

統合失調症の治療には抗精神病薬
が用いられます。抗精神病薬は大き
く分けて、定型抗精神病薬と非定型
抗精神病薬とがあります。

定型抗精神病薬は、主に神経伝達
物質（神経細胞同士が情報交換する
ときに必要な物質）の一種であるドー
パミンの作用を妨げることで陽性症
状を改善します。しかし、運動機能

に関係する部分や性ホルモンに関係
する部分のドーパミンの作用も妨げて
しまうため、手足が震えるなどの錐
体外路症状という運動機能障害や乳
汁分泌、月経異常、性功能障害など
の副作用が現れることがあります。
また、陰性症状は逆に悪化させてし
まうこともあります。

非定型抗精神病薬は、ドーパミン
のほかセロトニンなどの神経伝達物質
にも作用し、陽性症状だけでなく、
陰性症状にも効果が得られることが
あります。陽性症状に対する作用は
定型抗精神病薬と同等で、運動機能
や性ホルモンに関係する部分への作用
が少し弱いため、少量では錐体外路
症状などの副作用が少ないといわれて
いますが、服用する量が増えると副
作用の発現も増えていき、定型抗精
神病薬と変わらない頻度になってしま
います。それ以外の副作用は体重が
増加したり、血糖値が上昇すること
もあります。

抗精神病薬以外の薬はそれぞれの

症状に合わせて、抗うつ薬や抗不安
薬、睡眠導入剤などが使われたりし
ます。また、抗精神病薬による手の
震えなどの副作用を抑える目的で抗
パーキンソン薬が使われることもあり
ます。

薬物療法は症状の改善を目的にお
こなわれますが、家庭生活や社会生
活の障害を回復する目的でリハビリ
テーションもあわせておこなわれま
す。リハビリテーションには、心理教
育や生活技能訓練、作業療法などが
あり、症状や生活の状況に合わせて
おこなわれます。

統合失調症は、治療を中断するこ
とで病気が悪化する可能性もありま
す。また、再発しやすい病気だとも
いわれています。治療が長期にわたる
こともあります。症状が良くなって
も自己判断で治療を中断することな
く、治療の終了に向けて主治医とよ
く相談してください。

（北区）薬局エビラファーマシー

松本博志